

# 講義受講時の音声の聞き取りに関する研究

健聴学生と聴覚障害学生の比較を通して

○鈴木祥隆

原島恒夫

堅田明義

(岐阜大学教育学部

(筑波大学人間系)

(中部学院大学)

KEY WORDS: 聴覚障害・聞き取り・講義

## I. 目的

近年、高等教育機関における聴覚障害学生の情報支援は浸透しつつあるが、情報支援は講義参加における困難や制限を緩和するにすぎず、健聴学生と同様の環境を提示するには至らない。このような背景において、鈴木ら(2015a)は聴覚障害学生の疲労感について聞き取りを行った。その結果、受講場面に言及した発話内容が多くみられた。聴覚障害学生の講義時の負担について、その全体的な特徴の解明はなされたものの、健聴学生との比較がされていないなどの課題も挙げられた。

そこで本研究では、健聴学生および聴覚障害学生を対象に、質問紙調査を行い、講義受講時の音声の聞き取りの実態について明らかにすることを目的とした。

## II. 方法

### 1. 協力者

健聴学生 221 名および聴覚障害学生 7 名であった。健聴学生については、質問項目において、補聴機器の装用をしていない、聴覚障害について申告がない者を健聴学生とした。聴覚障害学生の良聴耳の聴力レベルは、80~90dB 以下が 1 名、90dB 以上~100dB 以下が 3 名、100dB 以上が 3 名であった。

### 2. 手続き

健聴大学生については、講義終了後に質問紙の配布を行い、その場で回収を行った。聴覚障害学生については、障害学生支援室に依頼し、配布・回収を行った。

### 3. 調査内容

健聴大学生および聴覚障害学生における共通な調査内容は、所属、専門領域、年齢、性別、補聴機器の装用状況、情報保障のための支援がない状況下での講義の音声の聞き取りに関する内容は 23 質問項目、講義の聞き取りに関して負担や疲労感についてのエピソード(自由記述)であった。聴覚障害学生には、上記の項目に加え、聴力レベル、教育歴、主とするコミュニケーション手段、講義時に利用している情報保障のための支援の種類、日常におけるきこえの程度、講義受講に関する情報保障のための支援がある状況下での 28 質問項目、日常生活における健聴者について回答を求めた。支援あり・支援なしの項目は同一であり、回答方法は「大変よくあてはまる」~「全くあてはまらない」の 5 件法とした。

質問項目の作成については、鈴木ら(2015a, 2015b)において得られた発話をもとに作成を行った。質問項目の作成後、聴覚障害を専攻する健聴学生 6 名および聴覚障害学生 3 名に予備的に調査を行い、質問項目の文言等の修正を行った。

### 4. 分析

講義受講時の音声の聞き取りに関する項目については、「大変よくあてはまる」~「全くあてはまらない」それぞれ単純集計を行い、「大変よくあてはまる」~「全くあてはまらない」を 5~1 に数値化し得点の算出を行った。

### 5. 倫理的配慮

筑波大学人間系研究倫理委員会の承認を得て実施した。

## III. 結果と考察

健聴学生 221 名のうち、すべての項目に回答がされていないもの、留学生が回答したものについては、分析の対象から除外した。そのため 206 名を分析の対象とした(有効回答率 93.2%)。一方、聴覚障害学生については現時点で回収できた 7 名において記入漏れがなかったため、7 名すべてを分析の対象とした。

以下、健聴学生と聴覚障害学生の結果について述べる。

### 1. 健聴学生について

健聴学生であっても、「講義中は、提示資料、手元の資料、話者などへ支援の移動回数が多い(3.72)」「講義を聞く時は、集中して聞く必要がある(3.68)」の項目の得点が上位であった。また、自由記述では、「(教員の)活舌が悪かったり、声が小さいと少し聞こえづらいため、ストレスを感じる」「声が小さい先生の授業は本当にストレス」などの意見がみられた。これらより、一部の健聴学生においても受講時に音声の聞き取りにくさやストレスを感じていることが伺えた。

### 2. 聴覚障害学生について

支援がない時において、「講義中は周囲の様子を見て、進行や内容を確認する」「講義を聞く時は話者の口形を注視する」がそれぞれ 4.71 で最も得点が高かった。最も得点が低かったのは「話題が変わったことにすぐに気が付く(2.00)」「講義を聞きながらメモを取ることができる(2.00)」であった。他方、自由記述では、「口元が読み取りづらいときは疲労感が大きい」がみられ、支援がない時には講義の受講に困難が生じることが確認された。

聴覚障害学生において支援がある時と支援がない時で差が大きかった項目がみられた。具体的には「講義を聞くことが負担になり、途中で聞くことを諦める」「講義を聞く時は、聞きとった内容に自信がもてない」「講義中、話題が変わったことにすぐ気が付く」「話者に注目せず、講義を聞きながらメモを取ることができる」などの項目であった。情報支援があることにより、聞き取りやすくなっていることが伺えた。

## IV. まとめと今後の課題

「講義中の講義者の雑談は、気を抜いて聞く」「講義中、話題が変わったことにすぐに気が付く」「講義を聞く時は、講義に関する情報を得ようと必死である」については情報支援があることにより、健聴学生と同等の数値になっていた。今後、聴覚障害学生の協力者数を増やし、聴力レベルや教育歴による差の有無等について詳細な分析を進める。

## 文献

鈴木祥隆・原島恒夫・杉中拓央・田原敬・堅田明義(2015)

大学における聴覚障害学生の疲労感に関する研究. 聴覚言語障害, 44(1・2), 13-24.

鈴木祥隆・原島恒夫・田原敬・李彩環・堅田明義(2015)

聴覚障害者における Listening Effort に関する研究. 第 53 回特殊教育学会発表論文集.

(SUZUKI Yoshitaka, HARASHIMA Tsuneo, KATADA Akiyoshi)